

令和8年2月16日

課名 農林水産局水産課

担当者 課長 横内

内線 3609

## 令和7年度シーズンにおける広島かきのへい死状況について

## 1 概要

2月5日時点のへい死状況及び今後の対応について報告する。

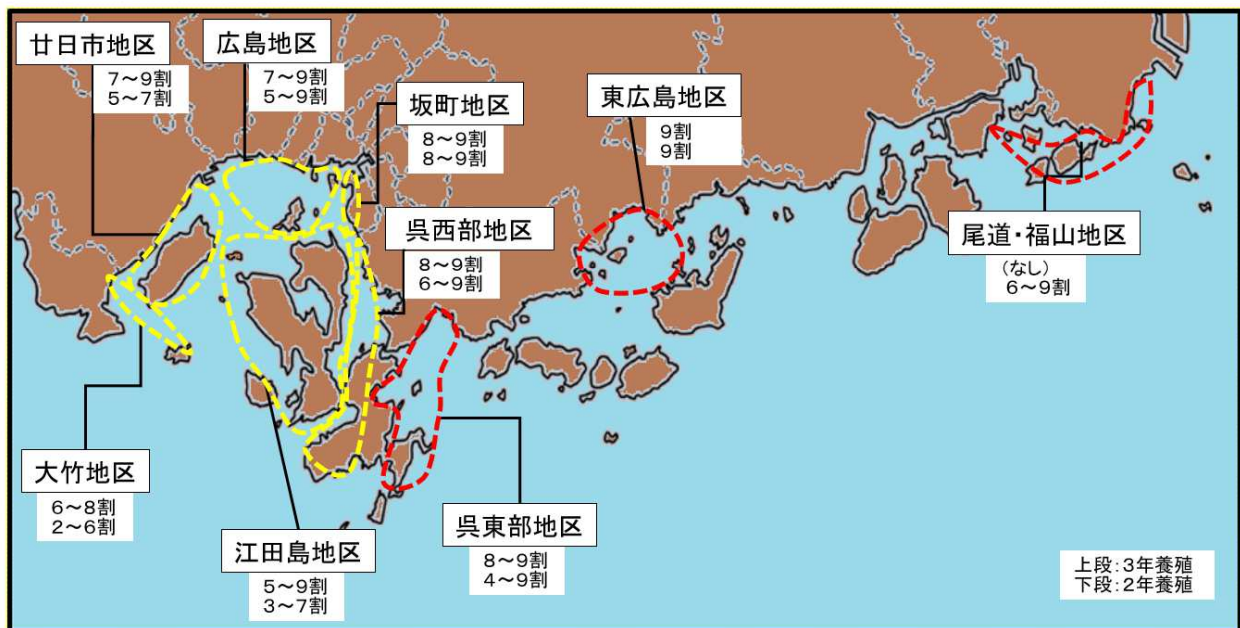
## 2 現在把握しているへい死状況

## (1) 調査方法

生産者や漁協及び関係団体から聞き取り等により、シーズン初めから出荷している3年養殖かき（ノコシ）と、年明けから出荷が始まっている2年養殖かき（ヨクセイ、イクスなど）について現在の状況を把握した。

## (2) へい死の状況

## 令和7年度かきのへい死状況(2月5日時点)



## (3) むき身かき出荷の状況及びかきへい死の状況

## ア 西部地区

## (ア) 出荷の状況

- ・ 出荷の中心が3年養殖かきから、2年養殖のかきに徐々に切り替わっている。
- ・ 多くの生産者は、水揚げしている養殖かきの量を平年の1.5～2倍程度としているが、へい死が多いため、むき身かき出荷量は平年の半分程度となっている。

## (イ) へい死の状況

- ・ へい死割合は、3年養殖、2年養殖かきも大きく変わらず2～9割であり、2年養殖かきについては3年養殖と比べるとややへい死割合は低い。
- ・ 海水温が低下した1月以降には、新たなへい死は見られない様子。

## イ 中東部地区

### (7) 出荷の状況

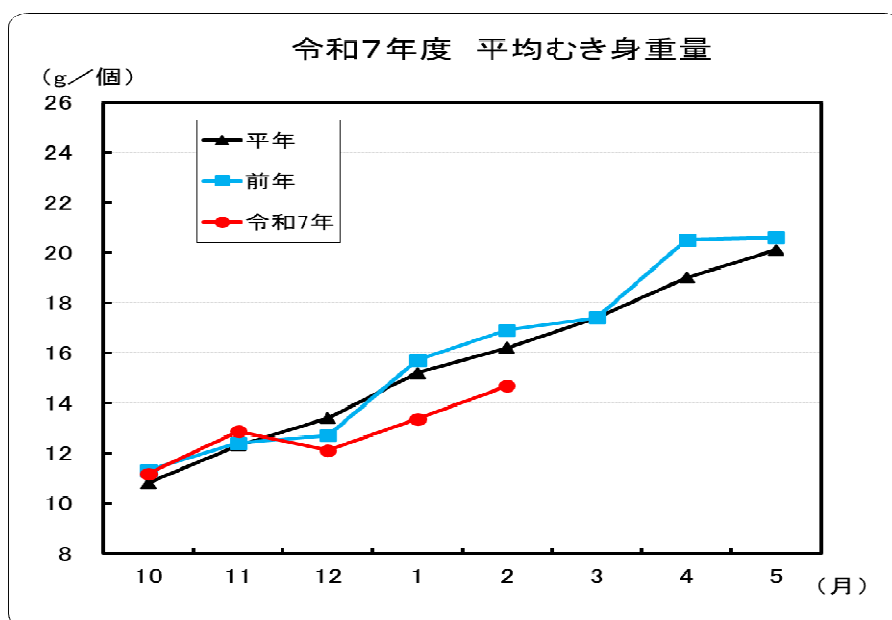
- ・ 依然として3年養殖かきを中心に水揚げをしており、一部の業者は2年養殖かきの水揚げも始めている。
- ・ ほとんどの生産者のむき身かき出荷量はわずかな量となっており、一部の生産者は、身入りが良くなるまで出荷を見合わせている様子。

### (イ) へい死の状況

- ・ へい死の割合は8～9割と依然として高いが、この地区においても、1月以降に新たなへい死は見られない様子。

### (4) かきの身入りの状況

- ・ 県が実施しているむき身調査において、10、11月に出荷していた生産者は少なく、そのむき身重量は平年並みであったが、出荷者が増えた12月以降は平年を下回っていた。
  - ・ その後も、むき身重量は平年を下回っているが、生産者からの聞き取りでは、12月は水かきの状態が多かったが、1月後半から徐々に身入りは良くなってきているとのことである。
- ※水かき：栄養分の少ないかきで、見た目が水っぽいのかき。



## 3 今後の対応

### (1) へい死実態の把握

県内全域のへい死状況を正確に把握するため、生産者から毎週報告されている生産出荷状況調査を継続するとともに、2月からはへい死実態調査事業により、生産者に対して養殖水深や筏の移動などの養殖工程や、へい死した時期・サイズなどについて、ヒアリングを実施している。

### (2) 原因分析および対策の検討

国の研究機関や大学などの専門家を集めた「令和7年度第1回広島県かきへい死に関する有識者会議」を1月21日（水）に開催し、かきのへい死に関する情報及び既存データを共有し、へい死の原因分析とそのために必要な調査・検討について意見交換を行った。

次回は3月下旬を目途に開催する予定であり、へい死実態調査などの結果を分析し、引き続き、様々な視点から原因究明を進め、対策の検討を行う。

## 令和7年度第1回広島県かきへい死に関する有識者会議の概要について

日 時：令和8年1月21日（水） 14時30分～17時30分

場 所：広島海区漁業調整委員会委員室（広島県庁本館4階）

（広島市中区基町10番52号）

形 式：対面・非公開（冒頭のみ公開）

出席者：有識者委員6名ほか、広島県水産課及び水産海洋技術センター、広島市水産振興センターの計15名

### <会議の概要>

#### 1 有識者会議の進め方について

県水産課から会議の運営方法やスケジュール、データ及び情報の取扱いについて説明した。

スケジュールについては、2カ月に1回程度開催することとした上で、次のかきシーズンに向けた生産準備が本格化する6～7月を見据え、令和8年5月には有識者会議の暫定意見を取りまとめ、令和9年3月には最終意見を取りまとめることを確認した。

また、会議結果については、県水産課が概要を取りまとめて、県ホームページで公表すること確認した。

#### 2 かきへい死、成育、出荷状況に関する現状の共有について

県から、今シーズンにおける県内各地のかきのへい死に関する状況及びその原因分析の検討状況等について報告した上で、有識者の知見をもとに議論した。

また、有識者委員などから、水温、塩分、降雨、餌料環境等の海洋環境について、瀬戸内海全体、広島湾、東広島市三津湾における今年度の傾向や調査結果のほか、かきの繁殖生理に関する報告を受け、かきのへい死との関係について議論した。

へい死の要因として、高水温が共通して見られるとともに、海域毎に高塩分・貧酸素・餌不足などのほか、産卵期の長期化による影響も考えられることから、引き続き、様々な視点から原因究明を進めていくことで一致した。

#### 3 有識者や県・広島市が保有するデータ項目の共有について

各自が保有している海洋環境データ項目、調査頻度、調査範囲等について共有することで、情報交換しながら分析に活用することを確認した。

#### 4 かきへい死の原因分析とそのための調査・検討について

県から、かきへい死の実態をより詳細に把握するための生産者ヒアリング調査や、次年度に漁場環境モニタリングの強化を検討している項目について説明し、出席者から助言を受けた。

また、有識者委員などから、現時点でへい死に関係すると考えられる要因について、今後その兆候を把握するために、強化すべきモニタリング項目や内容について議論し、短期的に取り組める対策や、中長期的な検討が必要な対策などについて提案を受けた。

#### 5 次回（３月）会議に向けた検討事項について

各専門分野において、今回共有した情報や論文等の知見をもとに分析を進め、3月中下旬を目途に開催する第2回会議に持ち寄ることを確認した。

#### 6 その他

県から、かき生産安定緊急対策事業（令和7年度12月補正、2月補正、令和8年度当初）について説明した。